

平成24年度

静岡県訪問看護ステーション実態調査

報告書

静岡県訪問看護ステーション協議会

平成24年度 静岡県訪問看護ステーション実態調査

I 目的

静岡県の訪問看護ステーション数は平成17年度をピークに減少し、ここ数年は124から125とほぼ横ばい状態でしたが、平成24年度に入りステーション数は増加しています。しかし一方で、人材不足が原因で廃止や休止になる事業所があります。平成22年度訪問看護ステーション実態調査の結果では、退職者の半数は就業して2年以内であることがわかりました。

本調査は、退職の原因を含む静岡県内の訪問看護ステーション実態を把握し、今後の訪問看護ステーション活動の発展向上に役立てることを目的としています。

II 調査概要

- (1) 調査対象 静岡県内の現存する訪問看護ステーション 135ヶ所
 (東部49ヶ所、中部36ヶ所、西部50ヶ所)
 前回調査時 123ヶ所 (東部45ヶ所、中部34ヶ所、西部44ヶ所)
- (2) 回答件数 135件 (回収率100%)
- (3) 調査内容 ① 訪問看護ステーションの届出状況
 ② 訪問看護ステーションの実施状況
 ③ 看護職員の就業状況
 ④ 看護職員の退職状況

III 調査方法 郵送配布、郵送回収 (自記方式)

IV 調査期間 平成24年10月2日～11月17日
 調査基準日：平成24年9月1日～30日

V 調査結果

1. 訪問看護ステーションの概要

1) 設置主体

「株式会社・有限会社・合同会社」が44ヶ所 (32.6%) と最も多く、次いで医療法人が40ヶ所 (29.6%) であった。

前回調査からの変化をみると、「株式会社・有限会社・合同会社」が11ヶ所増えている。訪問看護ステーションの増加は、「株式会社・有限会社・合同会社」によるものである。

表1 設置主体別割合 (N=135)

設置主体	数	割合	前回調査		増減数
			数	割合	
公立	7	5.2%	8	6.5%	▲1
日赤	3	2.2%	3	2.4%	—
医療法人	40	29.6%	39	31.7%	+1
医師会	2	1.5%	2	1.6%	—
看護協会	4	3.0%	4	3.3%	—
社団法人・財団法人	7	5.2%	7	5.7%	—
社会福祉協議会	4	3.0%	4	3.3%	—
社会福祉法人	13	9.6%	12	9.8%	+1
農業協同組合連合会・農協共	9	6.7%	9	7.3%	—
株式会社・有限会社・合同会社	44	32.6%	33	26.8%	+11
特定非営利活動法人	1	0.7%	1	0.8%	—
協同組合	1	0.7%	1	0.8%	—
計	135	100.0%	123	100.0%	+13

2) 同一法人の併設医療機関

同一法人の併設医療機関は「併設あり」が75ヶ所 (55.6%)、「併設なし」は60ヶ所 (44.4%) であった。「併設あり」のうち、病院・診療所共に併設しているのは21ヶ所 (15.6%)、病院のみが39ヶ所 (28.9%)、診療所のみが15ヶ所 (11.1%) であった。

前回調査からの変化は、「併設あり」「併設なし」共に6ヶ所の増加であった。「診療所のみ」には変化はなかったが、「病院のみ」は5ヶ所減り、「病院・診療所共に併設」が11ヶ所と大幅に増加している。

表2 同一法人の併設医療機関の有無 (N=135)

	数	割合	前回調査		増減数	
			数	割合		
併設有	病院	39	28.9%	44	35.8%	▲5
	診療所	15	11.1%	15	12.2%	—
	病院・診療所	21	15.6%	10	8.1%	+11
併設医療機関 無	60	44.4%	54	43.9%	+6	

3) 同一法人の併設事業

同一法人で「併設事業がある」のは116ヶ所（85.9%）で前回調査より11ヶ所増え、「併設事業はない」は前回より1ヶ所多い19ヶ所（14.1%）であった。併設事業の内訳で最も多いのは、居宅介護支援事業で92ヶ所である。次いで多いのは訪問介護60ヶ所、通所介護57ヶ所、通所リハ46ヶ所である。

表3 同一法人併設事業の有無 (N=135)

	数	割合	前回調査		増減数
			数	割合	
併設事業あり	116	85.9%	105	85.4%	+11
併設事業なし	19	14.1%	18	14.6%	+1

表3-2 併設事業の内訳 (複数回答 N=479)

事業の種類	数	割合	前回調査		増減数
			数	割合	
訪問介護	60	12.5%	49	12.0%	+11
訪問入浴介護	19	4.0%	8	2.0%	+11
訪問リハビリ (医療機関)	19	4.0%	13	3.2%	+6
療養通所介護	12	2.5%	6	1.5%	+6
通所介護	57	11.9%	49	12.0%	+8
通所リハビリ	46	9.6%	43	10.5%	+3
福祉用具貸与	15	3.1%	9	2.2%	+6
短期入所生活介護	17	3.6%	14	3.4%	+3
短期入所療養介護	26	5.4%	24	5.9%	+2
ケアハウス	8	1.7%	9	2.2%	▲1
グループホーム	23	4.8%	18	4.4%	+5
居宅介護支援	92	19.2%	97	23.8%	▲5
小規模多機能	16	3.3%	11	2.7%	+5
特別養護老人ホーム	19	4.0%	15	3.7%	+4
老人保健施設	37	7.7%	28	6.8%	+9
複合型サービス	0	0.0%	—	—	0
その他	13	2.7%	15	3.7%	▲2

4) 加算等の届出状況

加算の届出状況は、特別管理加算が最も多く、126ヶ所（93.3%）であった。その他の届出数も増加しているが、居宅療養管理指導は減少している。

表4 加算の届出状況 (N=135)

加算の種類	届出の有無	事業所数		前回調査		増減数
		あり	なし	あり	なし	
緊急時訪問看護加算		121	14	105	18	+16
		89.6%	10.4%	85.4%	10.6%	
特別管理加算		126	9	115	8	+11
		93.3%	6.7%	93.5%	6.5%	
ターミナルケア加算		120	15	105	18	+15
		88.9%	11.1%	85.4%	14.6%	
24時間対応体制加算		113	22	98	25	+15
		83.7%	16.3%	79.7%	20.3%	
24時間連絡体制加算		27	108	22	101	+5
		20.0%	80.0%	17.9%	82.1%	
居宅療養管理指導		12	123	13	110	▲1
		8.9%	91.1%	10.6%	89.4%	
サービス提供体制強化加算		88	47	81	42	+7
		65.2%	34.8%	65.9%	34.1%	

5) 契約による訪問の状況

契約による訪問の状況は、グループホームへの11ヶ所増えた他は前回調査と大きな変化はない。

表5 契約状況 (N=135)

加算の種類	届出の有無	事業所数		前回調査		増減数
		あり	なし	あり	なし	
グループホーム		35	100	24	99	+11
		25.9%	74.1%	19.5%	80.5%	
特定施設		7	128	4	119	+3
		5.2%	94.8%	3.3%	96.7%	
特別養護老人ホーム		1	134	3	120	▲2
		0.7%	99.3%	2.4%	97.6%	

6) 職員体制 (平成24年9月の状況)

職員区分別では、「看護職員」は901人 (73.4%)、「リハビリ職員」は235人 (19.2%)、「事務職員」は85人 (6.9%)「その他」は6人 (0.5%)であった。

前回調査の常勤換算からの変化をみると、従事者総数は74.9人増加している。看護師が最も多く45.3人の増、次いでPTが24.9人の増である。

1事業所あたりの職種別従事者数でみると、「看護職員」の常勤換算は前回調査の4.78人から4.71人と若干ではあるが減少した。「リハビリ職員」は前回調査時0.85人から1.03人と増加している。

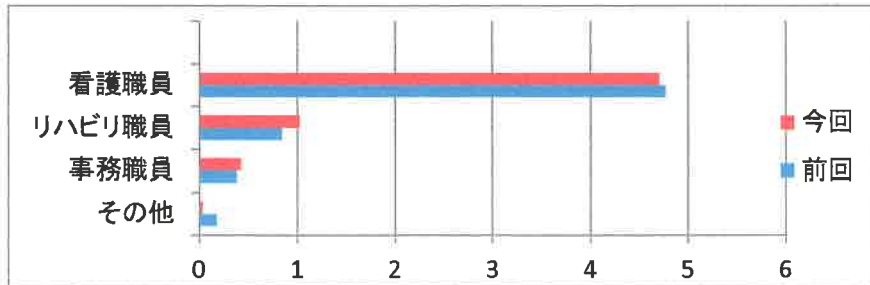
表6 職種別職員数 平成24年9月現在 (N=135、単位：人)

	従事者数			常勤換算従事者数		前回調査常勤換算		増減 人数
	総数	常勤	非常勤	人数	構成割合	人数	構成割合	
総数	1,227	705	522	838.6	100%	763.7	100%	+74.9
保健師	14	11	3	11.3	1.4%	7.7	1.0%	+3.6
助産師	3	1	2	2.1	0.2%	2.2	0.3%	▲0.1
看護師	834	469	370	589.3	70.3%	544.0	71.2%	+45.3
准看護師	50	24	22	32.9	3.9%	34.0	4.5%	▲1.1
理学療法士	177	110	67	102.6	12.2%	77.7	10.2%	+24.9
作業療法士	52	38	14	35.1	4.2%	26.0	3.4%	+9.1
言語療法士	6	4	2	1.8	0.2%	1.8	0.2%	0
事務職員	85	46	39	58.6	7.0%	48.3	6.3%	+10.3
その他	6	3	3	4.9	0.6%	22.0	2.9%	▲17.1

表6-2 1事業所あたりの職種別従事者数 (N=135、単位：人)

	従事者数			常勤換算 従事者数 人数	前回調 査常勤 人数	増減 人数
	総数	常勤	非常勤			
総数	9.08	5.22	3.85	6.21	6.20	+0.01
保健師	0.10	0.08	0.02	0.08	0.06	+0.02
助産師	0.02	0.01	0.01	0.02	0.02	0
看護師	6.19	3.44	2.74	4.33	4.42	▲0.09
准看護師	0.37	0.21	0.16	0.28	0.28	0
理学療法士	1.31	0.81	0.50	0.76	0.63	+0.13
作業療法士	0.38	0.28	0.10	0.26	0.21	+0.05
言語療法士	0.04	0.03	0.01	0.01	0.01	0
事務職員	0.63	0.34	0.29	0.43	0.39	+0.04
その他	0.04	0.02	0.02	0.04	0.18	▲0.14

図1 1事業所あたりの職種別従事者割合の前回調査との比較 (N=135、単位：人)



看護職員の常勤換算数は「3.0~3.9人」が38ヶ所 (28.2%)と最も多く、次いで「4.0~4.9人」で27ヶ所 (20.0%)であった。5人未満のステーションは、88ヶ所 (65.2%)で、前回調査と比べると小規模ステーションが増えている。

表7 看護職員常勤換算数とステーション数 (N=135)

常勤換算数	ステーション数	前回調査数
2.5~2.9	23	18
3.0~3.9	38	34
4.0~4.9	27	26
5.0~5.9	20	23
6.0~6.9	10	11
7.0~9.9	14	5
10.0~14.9	2	4
15.0以上	1	2

表8 看護職の地区別常勤換算

		看護師	保健師	助産師	准看護師	合計
東部	今回	4.29	0.01	0	0.40	4.70
	前回	3.92	0.06	0.02	0.50	4.50
中部	今回	4.25	0.04	0	0.32	4.61
	前回	4.71	0.06	0	0.27	5.04
西部	今回	4.52	0.18	0.04	0.04	4.78
	前回	4.71	0.07	0.03	0.05	4.86

2. 利用者の状況（平成24年9月1日～9月30日の1ヶ月）

1) 利用者の年齢・性別

平成24年9月の1ヶ月間の訪問看護利用者総数は、9,949人であった。前回調査時より1,055人増加している。男女比率は、男性4,519人（45.4%）、女性は5,430人（54.6%）と前回調査と同様で女性が多い。年齢別では、男女共に75～89歳が最も多く、訪問看護利用者全体の約半数を占める。

2) 保険別の利用者数・訪問回数

保険別の利用者数は、介護保険が7,987人（80.3%）、健康保険1,879人（18.9%）、その他83人（0.8%）であった。保険別の利用者の割合は、前回調査とほぼ同じである。

保険別の延べ訪問回数は、介護保険44,054回（76.5%）、健康保険13,282回（23.0%）その他290回（0.5%）であった。介護保険の訪問回数が5506回増加しているが、保険別の訪問回数の割合は前回調査とほぼ同じである。

表9 利用者の年齢別・性別数

年齢	性別		利用者数		前回調査利用者数		増減 利用人数
	男性 人数	女性 人数	人数	割合	人数	割合	
1～15歳	80	70	150	1.5%	102	1.1%	+48
16～39歳	95	77	172	1.7%	157	1.8%	+15
40～64歳	573	477	1,050	10.6%	978	11.0%	+72
65～74歳	935	749	1,684	16.9%	1,599	18.0%	+85
75～89歳	2,355	2,793	5,148	51.8%	4,558	51.2%	+59
90歳以上	481	1,264	1,745	17.5%	1,500	16.9%	+245
計	4,519	5,430	9,949	100.0%	8,894	100.0%	+1055

表10 保険別利用者数と延べ訪問回数

	利用者数		前回調査利用者数		訪問回数		前回調査訪問回数		増減 訪問回数
	人数	割合	人数	割合	回数	割合	回数	割合	
介護保険	7,987	80.3%	7,206	81.0%	44,054	76.5%	38,548	76.1%	+5506
健康保険	1,879	18.9%	1,656	18.6%	13,282	23.0%	11,975	23.6%	+1307
その他	83	0.8%	32	0.4%	290	0.5%	134	0.3%	+156
計	9,949	100.0%	8,894	100.0%	57,626	100.0%	50,657	100.0%	+6969

3) 介護保険利用者の内訳

介護保険利用者の介護度別でみると、要介護5が最も多く1,919人（24.0%）、次いで要介護4が1,478人（18.5%）である。介護度別の訪問回数も、要介護5が最も多く11,560回（26.2%）、次いで要介護4が8,582回（19.5%）である。

前回調査からの変化をみると、要支援1・2や要介護1・2の利用がやや増加している。

表11 介護保険の介護度別利用状況

	利用者数		前回調査利用者数		訪問回数		前回調査訪問回数	
	人数	割合	人数	割合	回数	割合	回数	割合
要支援1・2	681	8.5%	552	7.8%	3,024	6.9%	2,340	6.2%
要介護1	1,213	15.2%	911	12.8%	6,123	13.9%	4,505	11.8%
要介護2	1,436	18.0%	1,176	16.5%	7,816	17.7%	6,037	15.8%
要介護3	1,260	15.8%	1,154	16.2%	6,949	15.8%	5,879	15.4%
要介護4	1,478	18.5%	1,456	20.4%	8,582	19.5%	7,931	20.8%
要介護5	1,919	24.0%	1,875	26.3%	11,560	26.2%	11,409	30.0%
計	7,987	100.0%	7,124	100.0%	44,054	100.0%	38,101	100.0%

図2 介護度別利用者数（前回調査との比較）

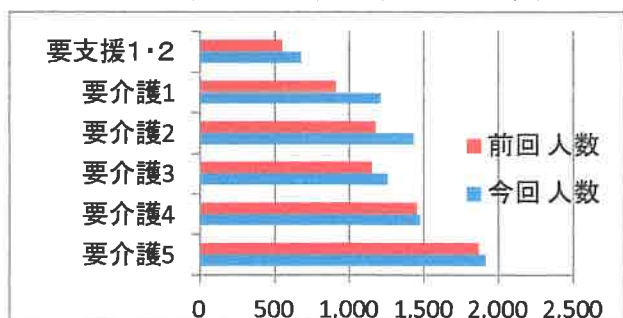
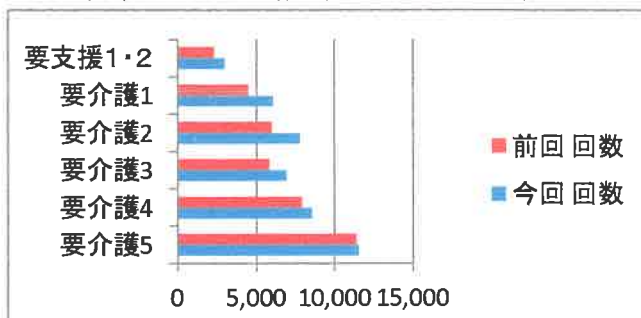


図3 介護度別訪問回数（前回調査との比較）



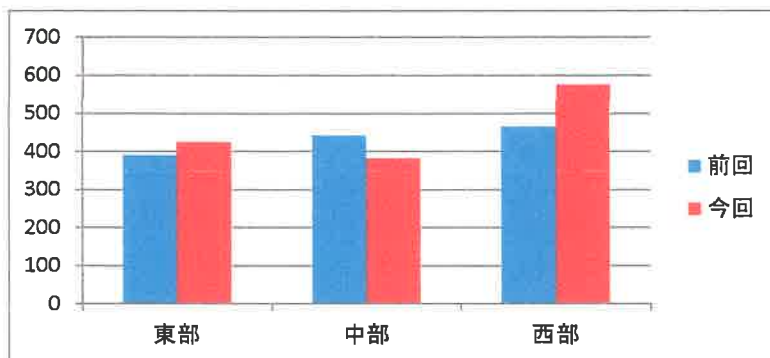
地区別の看取りの状況

看取り数を地区別で見ると、東部が35件、西部が108件と増加しているのに比べ、中部地区は60件と大幅に減少している。前回調査時より事業所数は、東部で4ヶ所、中部で2ヶ所、西部で6ヶ所増えているが常勤換算数で見ると、中部は前回調査時5.04人から、今回の調査では常勤換算が4.61人と、他の地区に比べ減少していることも看取り数の減少に影響していると考えられる。

表14 地区別看取り数

地区	数	割合	前回調査		増減 数
			数	割合	
東部	425	30.8%	390	30.0%	+35
中部	383	27.7%	443	34.1%	▲60
西部	574	41.5%	466	35.9%	+108
計	1,382	100.0%	1,299	100.0%	+83

図6 地区別看取り数（前回調査との比較）



5) 医療処置の実施状況

全事業所が実施している医療処置は、前回調査と同様で服薬だけである。褥瘡処置は134ヶ所（99.3%）、在宅酸素療法は132ヶ所（97.8%）が対応している。在宅腹膜灌流は、前回調査では66ヶ所（53.7%）であったが、今回は89ヶ所（65.9%）と対応できる事業所がわずかであるが増加している。PTやOTによるリハビリは、76ヶ所（56.3%）と前回調査の68ヶ所（55.3%）より増加している。

表13 医療処置の実施状況 (N=135)

項目	対応可能		対応不可		前回調査 対応可		対応可の 増減 数
	事業所数	割合	事業所数	割合	事業所数	割合	
インスリン	125	92.6%	10	7.4%			
点滴・静脈・持続皮下注射	130	96.3%	5	3.7%	115	95.3%	+15
中心静脈栄養	120	88.9%	15	11.1%	104	84.6%	+16
在宅自己腹膜灌流	89	65.9%	46	34.1%	66	53.7%	+23
ストーマケア	129	95.6%	6	4.4%	117	95.1%	+12
在宅酸素療法	132	97.8%	3	2.2%	119	96.8%	+13
人工呼吸器	115	85.2%	20	14.8%	91	74.0%	+24
気管カニューレ	122	90.4%	13	9.6%	110	89.4%	+12
吸入・吸引	130	96.3%	5	3.7%	120	97.6%	+10
服薬	135	100.0%	0	0.0%	123	100.0%	+12
経管栄養	131	97.0%	4	3.0%	121	98.4%	+10
褥瘡処置	134	99.3%	1	0.7%	122	99.2%	+12
留置カテーテル（膀胱内・瘻、胃瘻）	130	96.3%	5	3.7%	120	97.6%	+10
ペインコントロール	122	90.4%	13	9.6%	108	87.8%	+14
在宅リハビリ（看護師）	131	97.0%	4	3.0%	118	95.9%	+13
（PT, OTによる）	76	56.3%	59	43.7%	68	55.3%	+8

3 対象者別対応状況

対象者別対応状況をみると、難病に対しては130ヶ所（96.3%）と前回調査時の115ヶ所（93.5%）より対応できる事業所が増えている。悪性新生物に対しては129ヶ所（95.6%）と殆どのステーションが対応している。小児は、73ヶ所から88ヶ所へ、精神は73ヶ所から86ヶ所へと前回よりやや増加しているものの、全体の65%程度である。それぞれを年齢別でみると、小児は1～6歳が最も多く173件、難病は75～89歳が最も多く2,525件、悪性新生物も75～89歳が最も多く1,472件である。精神の訪問年齢で最も多かったのは、前回調査と同様40～64歳で、495件である。

表14 対象別対応状況 (N=135)

	可		不可		前回調査				対応可の増減数
	ST数	割合	ST数	割合	可		不可		
					ST数	割合	ST数	割合	
小児	88	65.2%	47	34.8%	73	59.4%	50	40.6%	+15
難病	130	96.3%	5	3.7%	115	93.5%	8	6.5%	+15
悪性新生物	129	95.6%	6	4.4%	119	96.8%	4	3.2%	+10
精神	86	63.7%	49	36.3%	73	59.4%	50	40.6%	+13

表14 小児 年齢別件数

年齢	件数	割合	前回調査		増減件数
			件数	割合	
1歳未満	71	21.1%	20	14.8%	+51
1～6歳	173	51.5%	68	50.4%	+105
6～15歳	74	22.0%	37	27.4%	+37
16歳以上	18	5.4%	10	7.4%	+8
計	336	100.0%	135	100.0%	+201

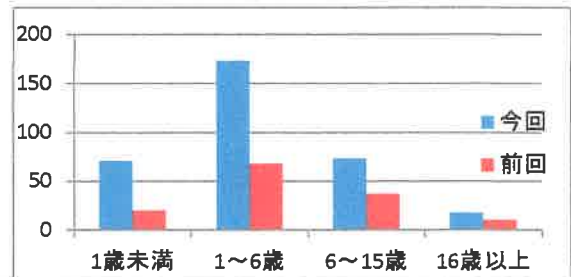


表15 難病 年齢別件数

年齢	件数	割合	前回調査		増減件数
			件数	割合	
1～15歳	133	2.5%	13	1.1%	+120
16～39歳	45	0.9%	45	3.7%	+0
40～64歳	900	17.0%	104	8.6%	+796
65～74歳	1,658	31.4%	274	22.6%	+1284
75～89歳	2,525	47.8%	748	61.8%	+1767
90歳以上	24	0.4%	26	2.2%	▲2
計	5,285	100.0%	1,210	100.0%	+4075

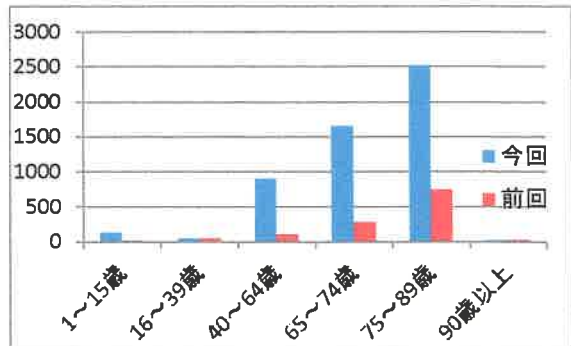


表16 悪性新生物

年齢	件数	割合	前回調査		増減件数
			件数	割合	
1～15歳	0	0.0%	0	0.0%	+0
16～39歳	282	8.1%	4	0.2%	+278
40～64歳	439	12.7%	161	9.7%	+278
65～74歳	932	26.9%	404	24.4%	+528
75～89歳	1,472	42.5%	888	53.5%	+584
90歳以上	339	9.8%	203	12.2%	+136
計	3,464	100.0%	1,660	100.0%	+1804

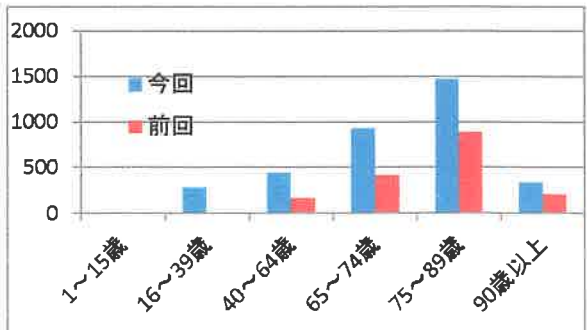
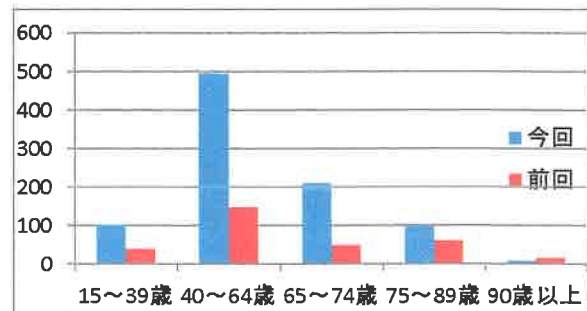


表17 精神 年齢別件数

年齢	件数	割合	前回調査		増減件数
			件数	割合	
15～39歳	102	11.2%	38	12.2%	+64
40～64歳	495	54.2%	148	47.6%	+347
65～74歳	210	23.0%	49	15.8%	+161
75～89歳	97	10.6%	60	19.3%	+37
90歳以上	9	1.0%	16	5.1%	▲7
計	913	100.0%	311	100.0%	+602



4. 平成23年度看護職員（保健師・助産師・看護師・准看護師）の就業状況

1) 新規就業者数（平成23年度中）

就業者数は、常勤89人（50.9%）、非常勤86人（49.1%）合わせて175人である。前回と比べ、14人増加している。就業者の看護職の経験年数は、常勤・非常勤共に10年以上が最も多く、合わせて125名（71.4%）である。就業前の職場は、病院・診療所が最も多く、常勤・非常勤合わせて98人（54%）である。

就業に繋がった募集方法は、前回調査と同様に「紹介」が最も多く、常勤・非常勤合わせて61人（34.9%）である。

表14 看護職員の新規就業者数

	就業者数	割合	前回調査利用者数		増減
			人数	割合	
常勤	89	50.9%	56	34.8%	+33
非常勤	86	49.1%	105	65.2%	▲19
計	175	100.0%	161	100.0%	+14

表15 新採用者の募集方法

	人数	割合	前回調査人数	増減
ナースセンター	14	8.0%	8	+4
職安	27	15.4%	27	0
求人誌	22	12.6%	16	+6
紹介	61	34.9%	61	0
その他	51	29.1%	49	+2
計	175	100.0%	161	+14

2) 退職者について

退職者は、常勤47人（48.5%）、非常勤50人（51.5%）の合計97人である。

勤続年数でみると、常勤退職者47人中5年以上が19人（40.4%）と最も多い。

非常勤退職者50人の内、1年未満が最も多く17人（34%）である。

前回調査では、常勤・非常勤ともに2年以内に50%以上が退職していたが、今回の調査でも常勤退職の内22人（46.8%）、非常勤退職の内27人（54%）とほぼ同様の結果である。

退職の理由は、前回調査と同様に常勤・非常勤ともに本人と家族の健康問題が最も多い。

退職理由項目に新たに「訪問看護が合わない」を設けた。常勤で3人（5.0%）、非常勤で5人（8.5%）いる。

表16 看護職員の退職者数と勤務年数

	常勤					非常勤				
	人数	割合	前回調査		増減	人数	割合	前回調査		増減
			人数	割合				人数	割合	
1年未満	9	19.2%	16	34.8%	▲7	17	34.0%	15	28.3%	+2
1～2年	13	27.7%	8	17.4%	+5	10	20.0%	12	22.6%	▲2
2～3年	5	10.6%	5	10.9%	0	7	14.0%	4	7.5%	+3
3～5年	1	2.1%	7	15.2%	▲6	7	14.0%	11	20.8%	▲4
5年以上	19	40.4%	10	21.7%	+9	9	18.0%	11	20.8%	▲2
計	47	100.0%	46	100.0%	+1	50	100.0%	53	100.0%	▲3

表15 主な退職理由（複数回答あり）

	常勤					非常勤				
	人数	割合	前回調査		増減	人数	割合	前回調査		増減
			人数	割合				人数	割合	
出産・育児	3	5.0%	5	10.4%	▲2	7	11.8%	6	11.3%	+1
結婚	1	1.7%	2	4.2%	▲1	0	0.0%	3	5.7%	▲3
本人の健康問題	8	13.3%	10	20.8%	▲2	9	15.2%	14	26.4%	▲5
家族の健康問題	8	13.3%	4	8.3%	+4	8	13.6%	5	9.4%	+3
転居	4	6.6%	6	12.5%	▲2	3	5.1%	6	11.3%	▲3
進学	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0.0%	0
人間関係	6	10.0%	1	2.1%	+5	3	5.1%	3	5.7%	0
訪問看護が合わない	3	5.0%				5	8.5%			
勤務時間長い・超勤多い	0	0.0%	1	2.1%	▲1	0	0.0%	0	0.0%	0
休暇がとれない	1	1.7%	0	0.0%	+1	0	0.0%	0	0.0%	0
携帯当番の負担	7	11.7%	4	8.3%	+3	0	0.0%	0	0.0%	0
給与に不満	7	11.7%	1	2.1%	+6	4	6.8%	1	1.9%	+3
責任・医療事故への不安	2	3.3%	0	0.0%	+2	3	5.1%	2	3.8%	+1
その他	10	16.7%	14	29.2%	▲4	17	28.8%	13	24.5%	+4
計	60	100.0%	48	100.0%		59	100.0%	53	100.0%	

退職理由の記述から

【 常勤 】

- ・リウマチ。スタッフに合わない人がいた。
- ・夫の病気
- ・父親の介護。患者との関係。スタッフとの関係。携帯当番の負担。通勤距離が長い。
- ・父親の介護（2）
管理者への不満
- ・法人内での移動（3）
- ・運転が苦手。アセスメントができない。家族と話ができない。
- ・上司との関係→ステーション設立へ
- ・子供の問題
- ・子供が不安定。リハビリスタッフとの折り合い。
- ・悪化する可能性のある病気
- ・娘の出産
- ・他にやりたいことがある。
- ・新しく事業を立ち上げる。
- ・自律神経失調症
- ・携帯当番の負担、責任の重さ。利用者からのクレームが多く、その都度指導していたが、スタッフと合わない自分を感じていた。→出勤できない精神状態になった連絡あり、心療内科受診

【 非常勤 】

- ・腰痛、頸部痛。自分の考えていたことと違った。医療行為が多く、自信がない。
- ・育児との両立が難しい
- ・車の運転が好きでない。耳鳴り。
- ・高齢により疲労感が強い。
- ・施設で働いてみたい。
- ・病院勤務に戻りたい。